

【表現学関連分野の研究動向】

日本語教育

加藤 恵梨

本誌の過去の日本語教育の研究動向においても幾度となく取り上げられている「やさしい日本語」は、日本に住む外国人の国籍の多様化とともに、情報発信の手段として活用されることが一層期待されている。2020年7月に閣議決定した「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（令和2年度改訂）」では、「3 生活者としての外国人に対する支援」の項目において、「外国人向けの行政情報・生活情報の更なる内容の充実と、多言語・やさしい日本語化による情報提供・発信を進める」ことが明記されている。また、2020年8月には、共生社会実現に向けた「やさしい日本語」の活用を促進するため、出入国在留管理庁と文化庁が『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』を作成した。このガイドラインは、「国や地方公共団体が、お知らせなどの情報を作るときに、やさしい日本語を使って日本に住む外国人にもしっかりと情報が届くようになること」を目指して作られており、書き言葉で情報発信する際に活用されることが期待されている。そこでは「やさしい日本語」の作成に、「ステップ1：日本人にわかりやすい文章」→「ステップ2：外国人にもわかりやすい文章」→「ステップ3：わかりやすさの確認」という3つのステップが重要であると説明されている。

このような政府の「やさしい日本語」の普及に向けた活動にともない、日本語教育学界でも多くの取り組みがされている。2020年に出版された「やさしい日本語」に関する書籍には、庵功雄（編著）『「やさしい日本語」表現事典』（丸善出版、2020年7月）、吉開章『入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう』（アスク出版、2020年8月）、岩田一成・柳田直美『「やさしい日本語」で伝わる！公務員のための外国人対応』（学陽書房、2020年10月）がある。庵（編著）は、PTA・保育園・行政・くらしなどの場面を想定した会話例と文章例をあげ、「やさしい日本語」に言い換え・書き換えるための技術について解説している。また、加藤好崇「インバウンドと『観光のためのやさしい日本語』」（『日本語学』vol.39-3、2020年9月）は、外国人旅行者とのコミュニケーション場面で用いる「観光のためのやさしい日本語」を提言している。

さらに、外国人を受け入れる日本社会側に向けての研修も行われている。日本語教育学会の2020年度秋季大会では、一般公開プログラムにおいて「受け入れ社会側へ働きかけるツールとしての『やさしい日本語』研修」と題し、役所、学校、医療分野において「やさしい日本語」の研修に関わっている実践家たちにより、実際に行っている研修内容が紹介された。このように、あまり共有されていない「やさしい日本語」の研修ノウハウを広めることにも力がそそがれている。

日本に住む外国人への情報発信の手段にとどまらず、多文化共生社会におけるコミュニケーション手段として、「やさしい日本語」が広く活用されることが期待される。

(大手前大学)